

いま、あなたができること～^{こつずい}骨髄バンク登録編～

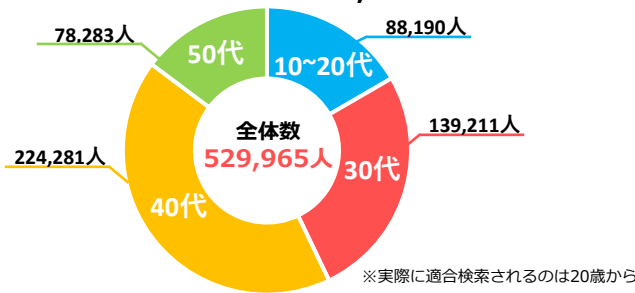
骨髄バンクの登録は、健康な骨髄や末梢血幹細胞の移植によって、白血病などの治療が困難な**血液疾患の患者さんを救う**ことができます。現在ドナーが現れるのを待っている患者さんは**年間約2,000人!**患者さんの「生きるチャンス」をお手伝いする骨髄バンクについてご紹介します。

ドナー登録出来る方

- ・骨髄・末梢血幹細胞の提供に十分理解している方
 - ・年齢が18歳以上54歳以下で健康な方
 - ・体重が男性45kg以上/女性40kg以上の方
- ※骨髄・末梢血幹細胞提供時には、家族の同意が必要です

2020年ドナー登録数

2020年3月末でのドナー登録者数は529,965人です。



人口千人あたりの登録数

全国平均9.43人



上位↑
沖縄 37.50人
栃木 22.38人
島根 20.09人

下位↓
岐阜 5.62人
神奈川 5.72人
静岡 5.90人

(2020年7月末)

移植のキーポイント・・・それはHLA型!

赤血球の型にABO型があるように、白血球の型にも**HLA型**があります。この型が患者さんと提供者（ドナー）とで一致しなければ骨髄・末梢血幹細胞移植は成功しません。ただし、**HLA型の適合率は、兄弟姉妹で4人に1人（25%）と言われており、血縁関係がないと数百万人から数万人に1人の確立とされています。**適合するドナーの方を待ち望む患者さんにとって私たちの登録は希望です。

登録方法

STEP 1 登録のしおり「チャンス」を読んで登録窓口へ

※登録は全国各地で行われています。
登録時はかわさきルフロン献血ルームへ（撮影：2019年12月20日）

ちなみに
神奈川県では11か所
東京都では13か所



STEP 2 医師との診察・採血をする

腕の静脈から**約2ml**を採血します。
採血した血液は遺伝子学的方法によりHLA型を調べます。



STEP 3 ドナーカードをもらって登録完了



後日、日本赤十字社から「登録確認書」が届く



1人の登録が、ドナーを待つ患者さんの大きな希望です

いま、あなたができること こつずい まっしょうけつかんさいぼういしょく 骨髄・末梢血幹細胞細胞移植 編

骨髄・末梢血幹細胞移植は、「骨髄・末梢血幹細胞を善意で提供する方（ドナー）」が存在してはじめて成立するという点が、他の治療法にはみられない最大の特徴です。

造血幹細胞（白血球・赤血球・血小板のもとになる細胞）は人工的につくることができないので、移植が必要な患者さんを助けるには、ドナーとなってくれる方の協力が必要です。

骨髄移植って？

骨の内部に存在するスポンジ状の組織で、その中に多くの造血幹細胞（白血球・赤血球・血小板のもとになる細胞）が含まれています。骨髄移植はこの骨髄を注射器で採取し移植する治療法です。

骨髄

2020年7月の移植件数

57人

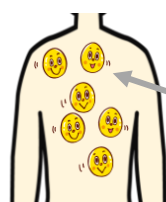


末梢血幹細胞移植って？

白血球を増やす薬を使用して末梢血管（全身を流れる血液）に増やした造血幹細胞（白血球・赤血球・血小板のもとになる細胞）を採取し、血液成分と分離する機器を使って取り出し移植する治療法です。

2020年7月の移植件数

19人



患者さんに届くまで

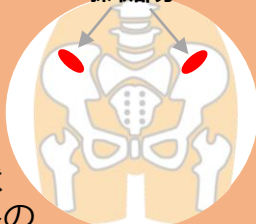
ドナー候補者へ通知 → 確認・検査 → 最終同意 → 採取前健康診断 → 入院 → 採取

骨髄採取方法

骨髄採取は腰の骨から

骨髄液は、骨盤を形成する大きな骨＝腸骨（腰の骨）から注射器で採取されます。手術室でうつ伏せになった状態で、骨盤の背中側、ベルトの位置より少し下の部分に皮膚の上から専用の針を数か所刺して吸引していきます。

採取部分



所要時間は1～3時間位

採取量は通常400～1200mlで、患者さんの体重に応じて採取量が決まります。骨髄採取は全身麻酔で行います。



末梢血幹細胞採取方法

末梢血幹細胞採取は腕から

採取前の3～4日間、通院または入院で白血球を増やす薬を注射します。4日目または5日目に腕に針を刺して、注射によって全身の血液に流れ出した造血幹細胞だけを採取し残りの血液を戻します。



所要時間は3～4時間位

採取する際は1～2日の入院をします。採取した量が不十分な場合は翌日、2回目の採取を行います。採取している間、両腕は動かさません。



採取した骨髄・末梢血幹細胞が患者さんのもとへ

移植は患者さんにとって大きな希望

苦しく辛い前処置を乗り越えて移植に望む

移植を受ける患者さんは、移植日の約1～2週間前から準備に入ります。抗がん剤の投与や放射線の照射を受け、造血幹細胞は壊され、血液が作られなくなります。そのため激しい吐き気や全身の脱毛などの副作用に耐えながら、命がけの治療に取り組んでいます。移植当日は、通常の輸血と同じように、点滴で数時間かけて患者さんの静脈から注入されていきます。